

本館前のツツジが見頃を迎えています。



6 月 号

令和 2 年 6 月 1 日発行
 【発行者】〒168-8510
 東京都杉並区高井戸西 1-12-1
 社会福祉法人 浴風会
 発行責任者 京極 高宣
 T E L (代表) 03-3334-2101
<http://www.yokufukai.or.jp/>
 【印刷所】株式会社サイド・ビー

緊急事態を乗り越え地域共生社会の創造を

社会福祉法人杉並区社会福祉協議会

会長 高 武征



この一月に杉並区社会福祉協議会の会長に着任いたしました高武征(たか たけゆき)です。昨年十二月までは、杉並区民生委員児童委員協議会の会長を務めておりました。立場は変わりましたが、引き続き杉並区の地域福祉の向上に微力ながら尽くさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、新型コロナウイルスの感染拡大は、私たちの暮らしにかつて経験したことのない多大なる影響をもたらしました。社会経済活動の自粛や学校休校など、年が明けた頃には思いもよらなかった事態がこの数か月間に起きてきました。亡くなられました方もおられます。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

我々社会福祉協議会の仕事も、この数か月間、大

く変わりました。地域の方々と共に進めていた福祉活動は、人と人とのふれあいの自粛で休止縮小を余儀なくされてしまいました。その一方で、収入減少があった方々への支援策として、緊急小口資金等の特例貸付や住居確保給付金の支給などが社協を窓口を実施され、職員はその対応に日々全力で臨んでいます。こうした状況は今後もまだ暫くは続くものと想定されますが、区民の安全安心な暮らしを守っていくために乗り越えなければならぬ壁と受け止めて、組織をあげて取り組んでまいります。

話題は変わりますが、浴風会の皆さまには、区内最大の社会福祉法人として、福祉・医療をめぐる様々な分野にわたって活発な活動をされており、心より御

礼申し上げます。特に、社協とも仕事の領域が重なる地域サービス部の方々には、時には仕事のライバル的立場から刺激を受け、また仕事のパートナーとして協力し合う中で、杉並の地域福祉の発展に共に寄与させていたいただいているところです。これからは、地域の人々が「お互いさま」の気持をもって支え合い助け合っていく「地域共生社会」を築いていくことが大きな課題です。このことでは、浴風会の皆さまとも様々な場面で協議し認識を一致させていただいているところですが、引き続きのご協力をお願い申し上げます。

結びにあたりまして、浴風の皆さまのご発展と関係者の皆さまのご多幸を祈念して、ご挨拶とさせていただきます。

認知症ケア現場における新型コロナウイルス感染症対策の課題 ～ 認知症介護指導者へのヒアリング結果から ～

認知症介護研究・研修東京センター
研修企画主幹 中村 考一



まず、医療・介護現場に置かれては、緊急事態宣言前から今もなお、「未知のウイルスから利用者・入居・入所者の命と生活を守る」という難しい取り組みを続けておられることに敬意と感謝をお伝えしたいと思います。認知症介護研究・研修センター（東京・仙台・大府）においては、現在、介護現場のコロナ対策へ貢献できるようにいくつかの取り組みを進めています。今回は、認知症介護指導者（以下、指導者）へのヒアリングを行った結果をご紹介します。4月末から5月頭にかけて、認知症ケア現場の現状と工夫について、電話やビデオ通話で全国63名からヒアリングをしました。

まず「現状と工夫」を尋ねたところ、「衛生用品不足」の声が多数を占めました。次いで、「家族等への対応」についての課題が多く寄せられました。「90代の利用者に面会に来た家族に面会を断りづらい」「利用控えの依頼もある。その際の家庭への見守り・配慮（をどうすればいいか）」等の意見が寄せられています。「都度利用者・家族へと通知しながら進めているが、前例もないため「これでいいのか」「何が一番いい策なのか」等という不安は立场上大きくある。」という意見もありました。他にも「デイを休みます（休止する）」といたない。「休むとすれば、休んだ後に高齢者の生活をどうフォローするかを考えないといけない」「近隣のデイサービスが休止することになり、急に受け入れを依頼されることが増えている」という声も上がり、社会的責任が大きい中で、利用者・スタッフそれぞれをどう守るのか、悩みの大きさが垣間見えました。

また、「自粛生活が認知症の人へ及ぼしている影響」についても尋ねました。「家族との面会ができないのが課題。不安になってきている。」「花見などにも行けないから、帰宅要求など落ち着かなくなってきた」「身体的な能力が落ちてきた人もいます。」などといった影響が語られました。一方で、「ニュースを見て理解していただけている」「少人数でのドライブや散歩などで、気分転換や体を動かす機会をつくるようにしている」「利用者さん

もマスクづくりを行っている」「気候が良くなつて、家族とは散歩しながら会ってもらっている」といった対策をたてられているところもありました。

介護現場のコロナ対策については、初めて経験することばかりで、利用者、スタッフそれぞれに余裕がなくなってしまう場面があると思います。命を守ることと生活を守ること、それぞれがとても大切なことで、社会として一つの正解を決めることができないところが難しい点です。それぞれの立場の人が、意見の正しさを競うのではなく、コミュニケーションをとって、落ち着いて自分の立場を伝えること、相手の気持ちを聞くことが、少し足を止めて熟慮することが、ヒアリングで得られたような前向きな対策を立てる助けになると思います。

*調査結果の詳細は、インターネットで「Dcnet」と検索しトップページにある「認知症介護指導者の所属する介護施設等における新型コロナウイルス対応の現状や工夫」をみると閲覧できます。

就任にあたってのケアの質の向上を目指して

浴風会病院

看護部長 佐野 廣子



4月に浴風会病院看護部長に着任しました佐野廣子です。どうぞ宜しくお願いいたします。

今年は1月15日に国内での新型コロナウイルス感染症第1例患者の発生以降、4月7日には政府から緊急事態宣言が発出され、その対応が日本の大きな課題となっています。幸いにも当浴風会では各施設で感染対策の徹底が功を奏し大きな混乱が生じておりません。

この感染対策の基本は皆さまご存じのように標準予防策(汗を除く全ての血液、体液、分泌物、排せつ物は感染の危険性があるものとして扱う)と感染経路別予防策(接触感染対策、飛沫感染対策、空気感染対策)が重要です。その中で何となく基本となるのは手洗いです。流水での手洗いとともに、業務の中では手指消毒剤の活用が有効です。浴風会病院では一患者(利用者)一手洗いを合言葉に職員の意識を高める取り組みを行っています。

また新型コロナウイルス感染症に関連し今年はおリンピックをはじめ各種イベントが延期・中止となっています。その中で看護に関係するものとして、「Nursing Now(ナースングナウ) キャンペーン」があります。これはナイチンゲール生誕200年で

ある2020年末まで、看護職が持つ可能性を最大限に発揮し、人々の健康向上に貢献するために行動する世界的な取り組みです。5月18日に開催されたWHO総会の冒頭でもこのキャンペーンが紹介されました。日本では看護協会が中心となり①看護教育の充実、②地域包括ケアにおける看護体制の構築、③看護職の働き方改革の推進、④看護職の役割拡大推進と人材育成に取り組んでいます。看護職の役割拡大においては2015年に保健師助産師看護師法が改正され、特定行為のできる看護職の育成が始まりました。侵襲度の高い38の医療行為を医師の包括的指示を受け看護師が実施します。これは地域包括ケアを担う在宅分野での医療ニーズへの対応です。

こうした地域医療の動きに合わせ「ときどき入院ほぼ在宅」を実現する地域包括ケアシステムを支える当院の役割を果たすため、質の高い医療・ケア提供ができるよう地域医療機関の皆様との連携をさらに進めて行きたいと考えております。当院では高齢者看護に関する3名の専門・認定看護師が在職していますが今後更なる人材育成を図り、ケアの質の向上を目指してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

新型コロナウイルスの集団発生防止にご協力をお願いします

を避けて
外出しましょう!

- ①換気の悪い
密閉空間
②多数が集まる
密集場所
③間近で会話や
発声をする
密接場面



新型コロナウイルスへの対策として、クラスター(集団)の発生を防止することが重要です。イベントや集会で3つの「密」が重ならないよう工夫しましょう。



3つの条件がそろった場所が
クラスター(集団)発生の
リスクが高い!

※3つの条件のほか、共同で使う物品には
消毒などを行ってください。

首相官邸 厚生労働省 厚労省 コロナ



浴風会の動き (5月)



4年前に現天皇后両陛下が行啓された記念に植樹されたオリーブの花

【本部事務局】

21日 「苦情解決委員会定例報告会」
新型コロナウイルス感染症予防の為開催中止。
(浅井)

経営職人事(令和2年6月1日付)

退職

浴風会病院 事務局長 君島淳二

(5月31日付)

昇任

浴風会病院 事務局長 宮本智

(病院事務局参事)

浴風会ケアスクール

Cafeオレンジリボンウッド

定期的に開催しております、「よくふう語ろう会」(第2水曜日)と「Cafeオレンジリボンウッド」(第2月曜日、第4金曜日)は、新型コロナウイルスによる感染拡大予防のため、当面開催を中止とさせていただきます。

現在、資格取得講座の申込受付を開始しております。介護福祉士を目指す方の必須の研修「介護福祉士実務者研修」7

【老人福祉事業】

浴風園 (養護老人ホーム)

月1日開講〜9月24日。通信7月1日、通学7月9日(木曜日、全10回)、介護の基礎から学べる研修「介護職員初任者研修」7月28日開講〜11月7日。(火曜日、全13回と修了式)の受講申込受付を開始しております。ご興味のある方は、お気軽にお問合せください。
(鈴木)

13日 新型コロナウイルスの影響で新茶会を開催することができませんでした。例年であれば、新茶会で皆様に新茶とお茶菓子を



できました。

茶とお茶菓子を楽しくいただきました。今年の春は昼食の折に、美味しい新茶とタンポポの花をモチーフにした和菓子を皆様に味わっていただきました。
(阿南)

松風園 (軽費老人ホーム)

1日 「新茶会」。本年は新型コロナウイルス感染症予防対策として、午後の新茶会を自粛し、昼食時に新茶と和菓子を

楽しんでいたかしました。新茶は古くから「無病息災長寿めでたし」と珍重されてきたとおり、参加



された利用者様からは香りの良い新茶をいただくと体の中から元気が出てくるとの感想や、和菓子「若鮎」も鮎の形に甘い味で新茶によく合うと好評でした。

25日 「新型コロナウイルス感染拡大予防策」。新型コロナウイルス感染予防対策として食堂テーブルにアクリル板や透明なビニールカーテンを設置しました。ことさら制限せずとも毎日自

粛して下さった利用者様やご家族・保証人様のお力添えで厳しい生活状況の中、罹患者なく過ごしていただいています。
(宮中)

浴風会ケアハウス

5月も、感染症予防対応で、通常の企画は中止・延期しています。密にならないよう気をつけ、企画を行いました。事務所に、脳トレと体操のプリントを用意しました。

21・22日 1テーブル1名の「ほっと一息カフェ」で新茶会では、新茶と和菓子をご用意しました。和菓子は、菖蒲と薔薇をかたどっていました。読書

等それぞれのんびり過ごしていただきました。
(尾滝)

【介護保険事業】

南陽園 (特別養護老人ホーム)

4・9日 「菖蒲湯」を行いました。

菖蒲は血行促進や保温効果の他に、邪気を払う薬草とも言われています。菖蒲湯で日頃の疲れを癒し、無病息災を

願いました。

5日 「端午の節句」。おやつに柏餅をいただきました。

10日 「新茶の会」開催。新茶の甘い香りと和菓子で、季節を感じていただきました。
(丸山)

南陽園在宅サービスセンター

(認知症対応型通所介護)

13・14日 夏のような青空の日に園庭にある「バラ園」へ散歩に出かけました。たくさんの方々に負けないくらいの笑顔写真を収めることができました。(鶴間)



★各事業のお問い合わせは随時行っておりますので、お気軽にご連絡下さい。

◎電話03-3334-2743 (鶴間・工藤)

第二南陽園 (特別養護老人ホーム)

4・6日 端午の節句を挟んで菖蒲湯を行ない、一年の無病息災を祈りました。

20日 「クッキング★カフェ」を新型コロナウイルス感染対策のため、午前・



午後の2回に分けて開催し、小人数でメロンカルピス蒸しパンときなこプリン黒みつ添え

を作りました。

今月は、フロア毎に新茶の会を開催し、新茶の香りと和菓子で季節を感じていただきました。(山崎)

第二南陽園在宅サービスセンター

(通所介護・介護予防通所介護)

第二南陽園在宅サービスセンターでは、5月も引き続きイベントや行事を中止・延期しておりますが、ご利用いただいている皆様はお元気に日々の活動にご参加くださっております。(限本)
★見学申し込みやデイサービスへの質問やお問い合わせは随時受け付けています。
03-3334-2140

第三南陽園 (特別養護老人ホーム)

4/9日「菖蒲湯」。第三南陽園では端午の節句に合わせ、菖蒲湯を行いました。フロアに目立つように菖蒲湯のポスターを掲示しました。それを見たご利用者が「今日はお風呂楽しみにしてたのよ」と嬉しそうに浴室まで来てくれました。菖蒲の香を楽しみながら皆様に入浴していただきました。

10日「新茶の会」。今年も園全体で新茶の会を開催しました。新茶は昔から「飲むと無病息災で過ごせる」と言われています。茶娘になった職員が心を込めて淹れさせていただきました。「おいしいわね」と午後の穏やかなひと時を過ごしました。(佐々木)

グループホームひまわり

4/5日 端午の節句。「菖蒲湯」に入つて、おやつには「かしわ餅」をいただきます。

ました。レクリエーションでは新聞紙で「兜」を作り端午の節句を楽しみました。

10日「母の日」。お花の宅急便とメッシージカードが多く届きました。届いたお花やカードを見てとても喜ばれていました。

15日 6階にある畑で育てた玉ねぎを収穫しました。直径10cmはありそうな大きな玉ねぎをたくさん収穫することができました。サラダにしたり、ポトフにしたり、色々なメニューに大活躍しそうです。この後はきゅうりやトマトなどの夏野菜を育てます。今年初めて、「すいか」と「かぼちゃ」にチャレンジします。(谷口)



【地域サービス事業】

地域包括支援センターケア24高井戸

5月から、毎年恒例の「杉並区おたっしゃ訪問」が始まりましたが、今年度は新型コロナウイルスの影響で、自宅訪問はせず、電話での対応になっています。日頃の地域での活動場が閉鎖され、自宅で過ごす時間が多くなり、生活上の制限で運動不足や人と話す機会が減り、認知症への不安の声も増えています。また、通院を控えて薬の処方のみを依頼する方



もいます。正に、日頃の地域での繋がりや身近な「かかりつけ医」の存在を意識する機会になっています。国が示すように「新しい生活様式」を考える時なのかもしれません。このような状況ですが、皆さんの声を様々な機会に伺いたいと考えていますので、宜しく願います。

杉並区地域包括支援センター

(尾関)

ケア24高井戸

電話03-3334-2495

【病院事業】

浴風会病院

新型コロナウイルス感染症に関する当面の対応について

①新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が解除されましたが、当面の間は入館時に検温及び手指消毒のご協力をお願いいたします。

②面会制限の緩和につきましても、都内の医療機関で新たなクラスターの発生が判明し、もうしばらく状況の推移を見守る必要があるため、面会の禁止措置を当面継続させていただきます。

ご迷惑をおかけいたしますが、引き続きのご理解とご協力をお願い申し上げます。(中澤)

◎予約電話 浴風会病院

03-3332-6511 (代表)

老健くぬぎ (介護老人保健施設)

11/16日 デイケアにて「新茶の会」を実施。お茶に関するクイズや茶摘みの歌などを皆さんで歌い、新茶を飲み

ながら和菓子进行が上っていただきました。外出自粛の中、少しでも季節を感じていただけたと思います。

26日 2階のご入所者で5月生まれの方を対象に誕生日会を行い、おやつと時間にケーキを提供しました。

入所部門ともに新型コロナウイルス感染症予防対策として、3密(密閉・密集・密接)を避けるため、ご利用者が集合しての行事等を自粛しております。なるべく早く感染状況が落ち着くよう事業所内の感染予防に努めて参ります。

新型コロナウイルス感染症予防対策として、ご面会の制限を行っております。ご家族様にはご不便をお掛けしておりますが、何卒ご理解ご協力をお願いいたします。(森屋)

★入所・デイケア・ショートステイご利用のご相談はお気軽にご連絡ください。

03-5336-7701 (代表)

03-5336-7734 (入所)

03-5336-7704 (デイケア)

【研究・研修他】

認知症介護研究・研修東京センター

11日 東京センター運営会議(Zoomで開催)

今年度の認知症地域支援推進員研修は全て中止

認知症指導者養成研修の第1回(5/18から開催予定)は中止

一部の職員はテレワークとなっています。(5月末まで)

外壁等工事は再開しました。(富島)



浴風会病院 ～「人生の集大成」を支援する医療とケアについて～

内科医師 佐藤 純一



♠はじめに

浴風会は、創立以来約 100 年の歴史を有し、以来日本の高齢者福祉と老年期医学をリードしてきました。これまでの医学の世界では、医者が患者の身体の状態を診断し、それによって「終末期」「人生の最終段階」を判断するのは当然と考えられてきました。しかしながらこの様な一方向からのアプローチでは、長寿の時代に「人生の集大成」をよりよく支援する事が困難な場合が少なくないのです。浴風会には医療従事者をはじめ、介護福祉などの様々な職員がおりますが、患者さんが辿ってきた人生の軌跡に敬意を払い、本人を人として尊重しつつ行う医療とケアとはどのようなものか、悩みながら模索しているのが現状です。これで良いのかと迷いながら、出来るだけ長く生命を維持する事が第一の職務と認識し、過剰かも知れないと懸念しながら医療行為を継続している場合も少なくありません。

♠人生の最終段階の医療について

私たちは誰しも、年齢に関わらず生命に関わるような大きな病気や怪我をする可能性があります。病はある日突然やってきます。放っておいても治ってしまうものもあれば、何らか形で一生付き合っていかなければならない病もあります。

健康というのが人の幸福の一つの形態ならば、医療や福祉はその「お手伝い」をするものとも言えます。極論を言えば、人間の死亡率は 100% です。しかし、それぞれの人生を締めくくるにあたって(飛行機ではありませんが)いきなり墜落と言うのは誰も望みません。

ところが、私達が命の危険が迫った状態になると、約 70% の人が医療や介護を自分で決めたり、希望を周囲に伝えたりする事が出来なくなると言われています。例えば、重度の脳血管疾患などに重篤な意識障害がしばらく継続した場合、高齢であるほどその後の意識を回復する可能性はゼロに近くなります。そのような場合、人工的水分・栄養補給(高カロリー輸液、経鼻経管や胃瘻からの栄養投与)などの医療行為を継続する事で、生命予後が月単位あるいは年単位になる事がしばしばあります。意識を回復しないまま、その延長した期間をどの様に考えれば良いのでしょうか。



生存していることそのものに意味があるか、あるいはこのような状態で生存期間が延びるのは本人にとって益ではないと考えるのか。いずれにしてもどの様に考えるかは、本人・家族の価値観や死生観など個別の状況で変わってくるもので、医療が一方的に決めるものではないと思われます。

♠周囲とのより良いコミュニケーションが重要

どうすれば自分自身が、ゆっくりゆっくり着陸(soft landing)出来るのか、具体的には、自分が希望する医療や介護を受けるにあたって、大切にしている人生観や望んでいる事、逆に望んでいない事、どこで「人生の最終段階」を望むかなどを、自分自身で前もって考え、あるいはそのお手伝いが出来るのか、医療従事者のみならず、周囲の信頼出来る人たちと普段から話したり、共有する事がとても役に立ちます。私ども医療従事者にも、どんな事でもよろしいので御相談頂ければ幸いです。

ご芳志

令和 2 年 4 月 16 日から 5 月 15 日

多くの方々よりご芳情をいただきました。
ありがとうございました。

〈金品・物品〉

宮沢 郁子様

●ほか、各施設にもいただいております。

お知らせ

新型コロナウイルス感染拡大防止の為、浴風会病院及び各施設におきましては面会の制限等を引き続き行っております。詳しくは各施設へお問い合わせください。



【ご意見をお寄せください】

〒168-8510 ※住所なしで届きます

機関紙「浴風会」編集部係

soumu2@yokufukai.or.jp

<http://www.yokufukai.or.jp/>